

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成25年6月8日現在

機関番号：11101
 研究種目：挑戦的萌芽研究
 研究期間：2010～2012
 課題番号：22652036
 研究課題名（和文）外交言語としての日本語の地位とソフトパワーとしての日本の言語政策的役割研究
 研究課題名（英文）Research on the Status of the Japanese Language as an Instrument of Language Diplomacy and the Soft Power Role of Japan's Language Policy

 研究代表者
 佐藤 和之 (SATO KAZUYUKI)
 弘前大学・人文学部・教授
 研究者番号：40133912

研究成果の概要（和文）：

日本の言語政策について明らかになった重要なことは以下の通り。①国内外で開催される多国間会議での日本語使用の状況を把握し、その理由付けをする②孔子学院の世界的展開や2007年のブッシュドクトリンの影響による海外大学での日本語学習者と中国語学習者をはじめとする外国語学習者の増減を掌握する③国連安保理常任理事国を目指す日本との関係から、日本語の国連公用語化についての識者の意見分布とその意見の背景を掌握する

研究成果の概要（英文）：

The salient elements of Japan's language policy that were clarified over the course of this project are as follows: First, the extent to which the Japanese language is used in multinational conferences held within and outside of Japan was confirmed. Second, bearing in mind the global expansion of China's Confucius Institute program and the influence of the 2007 "Bush Doctrine," changes in the numbers of students enrolled in Japanese and Chinese language classes in universities abroad were verified and analyzed. Finally, the range of perspectives of persons well-versed in issues related to Japan's quest to become a permanent member of the United Nations Security Council and efforts to make Japanese an official language of the United Nations were investigated and the contexts from which these positions arose analyzed.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2010年度	700,000	0	700,000
2011年度	1,000,000	300,000	1,300,000
2012年度	600,000	180,000	780,000
年度			
年度			
総計	2,300,000	480,000	2,780,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：言語学・言語学

キーワード：公用語、国連公用語、日本語、ソフトパワー、言語政策、孔子学院、アニメ、日本語教育

1. 研究開始当初の背景

情報の移動は、国境という枠組みを払拭した。衛星放送や携帯電話がよい例だが、ボーダレス化した世界で強力なソフトパワーとなった英語は、世界中の情報の表現様式や複数言語間の共通語になったかのように感じる。他方、EUのように、英語万能主義に従属せず、加盟国すべての言語を公用語とし、膨大な経費と時間と労力をかけても通訳と翻訳に割く国々もある。CNNやBBCに対抗しようと、フランスがフランス語によるニュースチャンネルを設立したり、アラブ社会がアラビア語による放送を行うなどもその一環である。また中国が政府会見を中国語だけで行なったり、ドイツがそのための経費を負担しても、ドイツ語を国連のセミドキュメントラングエッジに認めさせ、国連の決議事項をドイツ語でも記録させるなど、これらは、広域性や話者人口の多寡だけでは説明のつかない価値を認めてのことである。

ボーダレス化した国際社会での、英語の広域性という機能は強力なソフトパワーとなっている。他方でドイツのゲーテインスティテュートやフランスのアテネフランセなど、英語や英語圏の視点に対抗した自国言語や自国文化を海外展開する国もある。中国の孔子学院による中国語と中国視点からの文化論普及も同じである。

強力な英語化が進行する国際社会で中国に追い越された日本は、日本人の思想

や文化を他国や他国民、そして日本に居住する日本人や外国籍住民に日本語で伝える重要性をどう説明し、尊重させようとするのか。国際社会における日本の言語力を言語意識によって位置づける必要がある。

2. 研究の目的

ボーダレス化した国際社会で、英語の広域性という機能は強力なソフトパワーとなっている。他方でフランスのFrance24やアラブのal Jazeeraのように、CNNやBBCでの英語による視点に対抗した国際放送を発信する国がある。また、中国の孔子学院による中国語の普及と中国の視点での文化論を世界展開する国もある。ドイツのゲーテインスティテュートやフランスのアテネフランセなども同じである。大国の言語力が錯綜する国際社会で、日本は日本語力をどのように海外展開すべきか。2012年9月、国連総会において中国は尖閣諸島（中国名釣魚島）を「中国固有の領土」と中国語で演説した。日本は答弁権を行使したが日本語でなく英語だった。国連公用語の問題がここに潜む。本研究は、日本の抱える言語政策的課題について、日本の常任理事国入りと国連公用語という基軸を見据え、非英語圏の国々（フランスや中国）の考えと比べながら実地調査で裏付けた解決法を見出すことを目的とする。

大国の言語力が錯綜する国際社会にあって、日本は、日本語力をどのように海

外展開させるべきか。日本が抱える言語政策的課題について日本の常任理事国入りや国連公用語という基軸を見据え、非英語圏の国々（フランスや中国）の考えと比べながら実地調査で裏付けた解決法を見出す。

3. 研究の方法

日系アメリカ人の日本文学研究者および孔子学院のアジア展開を実務にしている中国人研究者の協力を得、下記調査を実施した。

日本人や日系人、アジア人が多く住む米国カリフォルニア州とハワイ州で、日本文化や日本語の拡大に携わる研究者および実務担当者と面談した。また中国東北部での聞き取りによる日本のソフトパワーについての調査を実施。日本文化や日本語教育に携わる教育者と面談、中国東北部の大学で日本語や日本文化に携わる教員と日本のソフトパワーとソフトパワー研究に対する意見を聴取した。

- 調査は面接による聞き取りとアンケートによるものとの併用にした。
- 調査に際し、米国人と中国人の日本研究者を研究協力者として研究に参加してもらった。
- 主要調査対象国を日本とアメリカ、中国とし、これら3カ国以外に中国（孔子学院）や日本（国際交流基金）が言語教育の拡充をはかっている国々での聞き取り調査を実施した。

研究課題に対しての明確な結論が得られるよう大きな3軸を立てて調査を実施する。

- (1)日本の伝統文化およびポップカルチャーを受け容れるための日本語の受容状況とマンガやアニメ、テレビ

ゲーム等での日本語の使用状況調査

- (2)国内外における日本語教育の学習者数と孔子学院および米国国家安全言語保障イニシアティブ以降の推移についての影響調査

- (3)国内外の多国間会議などで使用される日本語の使用実態および日本語の国連公用語化についての意見調査

4. 研究成果

調査では、日本の経済力と相関の関係にある言語力について言い及んだ。多国間会議の使用言語と記録文書の問題があった。とくに国連公用語と日本語の関係は重要である。国連への日本の拠出金は国連分担率の約13%であり、いまだに世界第2位（2012年調）の分担金を負担している。

もともと日本は1993年以来、常任理事国入りする準備のあることを表明してきた経緯がある。国連安保理は、国連が決定する世界の平和と安全へのもっとも大きな権限を担い、その決定は加盟国すべてを拘束する。決定は、国連公用語（英語、露語、仏語、中語、西語、アラビア語）で確認でき、国連ウェブサイトからほぼリアルタイムで情報を収集することができる。

しかし日本は、国連拠出金が第2位、かつ最多選出の非常任理事国でありながら、国連の最重要決議事項を日本語で入手することができない。一方、同じく常任理事国入りを目指すドイツは、すでに準国連公用語としての地位を担保しており、国連の重要文書をドイツ語で入手できる術を確保していた。

2012年9月、国連総会で中国と日本が執った言語行動の違いはこのことを鮮明にした。中国は「尖閣諸島（中国名釣魚

島)を「中国固有の領土」と中国語で演説し、答弁権を行使した日本は日本語でなく英語だった。国連公用語についての課題整理を早急にすべき基礎調査の意義がここにあった。

そのためになすべきこととして、調査から以下の軸が日本の言語政策について重要なことが明らかとなった。(1)国内外で開催される多国間会議での日本語使用の状況を把握し、その理由付けをすること(2)孔子学院の世界的展開や2007年のブッシュドクトリンの影響による海外大学での日本語学習者と中国語学習者をはじめとする外国語学習者の増減を掌握すること(3)国連安保理常任理事国を目指す日本との関係から、日本語の国連公用語化についての識者の意見分布とその意見の背景を掌握することであった。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計0件)

[学会発表] (計5件)

① Kazuyuki SATO
Japanese Language Policy and Soft Power
ASPAC & WCAAS JOINT CONFERENCE
NCE 2011
Pomona University, CA, USA
Jun. 17, 2011

② 佐藤和之、大規模災害への社会言語学的手法の適用について考える、社会言語科学会 東北大学(仙台市)、2012年9月1日

③ 佐藤和之、多言語としての「やさしい日本語」支援を考える、日本通訳翻訳学会 京都橘大学(京都市)、2012年9月8日

④ Victor Carpenter
Japanese Language and the Development of Soft Power
ASPAC & WCAAS JOINT CONFERENCE

NCE 2011
Pomona University, CA, USA
Jun. 17, 2011

⑤ L. K. MIYAKE
Transposing The Tale of Genji: 'Cool Japan' Cultural Capital?"
ASPAC & WCAAS JOINT CONFERENCE
NCE 2011
Pomona University, CA, USA
Jun. 17, 2011

[図書] (計0件)

[産業財産権]
○出願状況 (計0件)
名称:
発明者:
権利者:
種類:
番号:
出願年月日:
国内外の別:

○取得状況 (計0件)
名称:
発明者:
権利者:
種類:
番号:
取得年月日:
国内外の別:

[その他]
ホームページ等
The Tale of Genji from the Invitation to World Literature Series
ANNENBERG LEARNER, Teacher resources and professional development across the curriculum
<http://www.learner.org/courses/worldlit/the-tale-of-genji/watch/>

6. 研究組織

(1) 研究代表者
佐藤 和之(SATO KAZUYUKI)
弘前大学・人文学部・教授
研究者番号: 40133912

(2) 研究分担者
V・L カーペンター(VICTOR LEE CARPENTER)
弘前大学・人文学部・教授
研究者番号: 80142909

(3) 連携研究者 ()
研究者番号: